

令和 4 年 6 月 10 日現在

機関番号：17101

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2021

課題番号：18K02794

研究課題名（和文）自立活動の指導を担う教員の養成と現職研修の一体化に関する研究

研究課題名（英文）Study on Integration of Fostering and Onsite Training of Teachers Responsible for Jiritsukatsudou Guidance

研究代表者

一木 薫（ICHIKI, Kaoru）

福岡教育大学・教育学部・教授

研究者番号：30509740

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,300,000円

研究成果の概要（和文）：自立活動の指導を担う新任期の教師は、指導計画作成の難しさや不確実性への不安、指導力のなさ に直面する中、他教師に相談し文献に学ぶ ことで子どもとの関わり方の工夫 を図り、子どもの変容 に手応えを覚え、<子ども理解が深まる><指導計画作成の手続きの理解が深まる>等の自身の変容 を実感していた。教員養成段階で自立活動の指導計画作成の手続きについての理解を促すと、特別支援学校には協働性による《個別の指導計画作成システム》を基盤とした研修体制を構築することが、今後の課題である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

特別支援学級や通級による指導の対象となる児童生徒は年々増加傾向にある。このことは、自立活動の指導の担い手の拡大を意味する。一方で、自立活動については各教科のように学習指導要領に目標の系統性や扱う内容の順序性が規定されないことから、指導を担う教師は自らが立案した指導計画に不安を感じる現状にある。これは、センター的機能を担う特別支援学校の教師も同様である。本研究は、自立活動の指導を担う新任教師が直面する課題や課題への対処の経年的変化を明らかにした。自立活動の指導を担う教師の養成-研修を検討する際の根拠資料として意義がある。

研究成果の概要（英文）：Newly appointed teachers in charge of teaching Jiritsukatsudou face “anxiety concerning the difficulty and uncertainty of formulating appropriate instruction plans” and “anxiety regarding lacking sufficient teaching skills.” Meanwhile, they “ask other teachers for advice” and “learn from the relevant literature” to improve their commitment level with children, the deepening of which has resulted into obtaining a sense of confidence in the “changes observed in children,” and in the “changes observed in oneself.” Promoting newly appointed teachers’ understanding of the relevant procedures to formulate Jiritsukatsudou instruction plans at early stages of their training and establishing a training system based on the “individual instruction plan formulation system” through collaboration at each special support school are the upcoming issues that require attention for the further improvement of Jiritsukatsudou guidance.

研究分野：特別支援教育

キーワード：自立活動 新任教師 直面する課題 個別の指導計画 現職研修

1. 研究開始当初の背景

自立活動の指導については、自らが立案した個別の指導計画に不安を抱く教師や、自らが設定した指導目標・内容の不確実さから日々の授業やその他の職務に不安を抱く教師の実態が報告されている(一木・安藤, 2011)。一方で、特別支援学級や通級による指導の対象となる児童生徒の増加に伴い、自立活動の指導の担い手は年々拡大している(文部科学省初等中等教育局特別支援教育課, 2017)。わが国の特別支援教育の充実には、その中核となる自立活動の指導の質の向上が不可欠となる。自立活動の指導の場が多様化する中、センター的機能を担う特別支援学校の自立活動の指導に関する専門性を担保するための、教員養成 - 現職研修の一体化が喫緊の課題となっている。しかし、特別支援学校の教員養成については、これまで、免許状の取得に際し自立活動について何をどの水準まで修得させるのかを示すコアカリキュラムは存在しなかった。結果として、養成段階で自立活動の目標及び内容を学ぶ機会がないまま、特別支援学校の教員として赴任している現状も見受けられた。

2. 研究の目的

自立活動の指導に関する養成段階のカリキュラムと現職研修プログラムの拡充に向けて、本研究では、新任期の特別支援学校教師を対象とした調査を実施し、自立活動の指導を担う教師が直面する課題や課題への対処とその経年的変化を明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

(1) 対象者及び選定の基準

特別支援学校に勤務する新任教師 5 名を対象とした。実態把握から指導目標を導き出すプロセスを記す個別の指導計画の書式となっているか、その作成過程において自立活動の指導力を有する教師の関与がシステム化されているかを、対象者の選定基準とした。

表1 対象教師について

| | A 教師 | B 教師 | C 教師 | D 教師 | E 教師 |
|---------------|------|------|------|------|------|
| 特別支援学校教諭免許状 | | | | | |
| 指導目標設定に至るプロセス | | | | | × |
| 指導力を有する教師の関与 | | | × | × | × |

(2) 調査の時期

20XX 年～20XX+2 年の 7 月と 3 月に 1 人 1 時間程度の半構造化インタビューを行った。自立活動の指導を担う新任教師が直面する課題と対処の実態を明らかにするために、自立活動の指導で印象に残っている出来事、難しさや手応え、課題への対処、自身の成長を支えた機会、必要と感じている研修等について尋ねた。作成した逐語録を M - GTA の手順に沿って分析した。

4. 研究成果

新任期の教師は、自立活動の<指導計画立案の手続きが難しい><立案した計画に自信を持ってない・子どもの成長について具体的な見通しを描けない><(他教師や外部関係機関等との意見を踏まえた)指導計画の修正の必要性や方向性について悩む>等の指導計画における難しさや不安や、<指導計画で立案した指導を実行できない・実行できているか不安である><子どもの実態に即した教材教具の選定や関わり方・場面設定の工夫が難しい><必要な指導法の習得ができていない>といった指導力のなさ・不安を抱えていた。

これらの課題に、<他教師の指導を見て学ぶ><他教師等に相談し、助言を得る><他教師に実際に自分の指導を見てもらう>他教師等に相談等や文献に学ぶことで対処し、子どもとの関わり方の工夫を図る中で、授業時の子どもの変容に手応えを覚え、<指導方法や子ども理解が深まる><指導計画の立案の手続きに関する理解が深まる>等の自身の変容を実感していた。

一方、教師による違いも見られた。例えば、A 教師は、「課題関連図を整理し他の先生方の助言を受けることで、どこを整理できていなかったのか自分で気づけたのが一番大きかった」と、指導計画立案に手応えを覚えるに至った背景を語り、「子どもが物に手を伸ばす姿を解釈する視点が『環境の把握』なのか『人間関係の形成』なのかにより課題関連図から整理される中心課題が変わることから、自立活動の内容の区分・項目との対応で子どもの実態を理解する必要性を痛感する」等、自身の今後の課題を述べた。他方、自立活動では把握した実態に基づきどのように指導目標を導き出すとよいのか、その道筋が個別の指導計画の書式に担保されていない E 教師は、指導内容や指導方法の工夫の必要性を述べる一方で、「保護者になぜこの指導をしているか聞かれたときに、ちゃんと答えられるか不安」と自らが設定した指導目標への不安を語った。所属校の他教師等との関係や自立活動に対する考え方 に戸惑う C 教師や D 教師は、<学びの機会を確保できず、自身が教師として成長できていないことに悩む>自身の成長に関する課題

にも直面していた。

自立活動の指導計画の考え方(実態把握から指導目標・内容を設定する手続き)を踏まえた教育実践を前提に、指導経験を重ね、《自身の変容》を客観的に把握できることが、自身の成長に必要な研修課題の具体化、自覚に不可欠であることが確認された。新任教師が直面した課題への対処の選択に際しては、<指導を担当する子どもについて相談しやすい人間関係・学校文化><個別の指導計画作成システム>等の 他教師との関係・個別の指導計画作成システム や<校内研修・授業研究><学外の研修>(研修)が契機となっていた。行政研修を担う教育委員会や教育センターと特別支援学校が、適宜連携を図りながら、個別の指導計画作成システムを基盤とした研修体制を構築することが肝要であり、今後の課題である。

<引用文献>

- 1) 一木薫・安藤隆男(2011) 重度・重複障害教育担当教師の描く指導の展望の背景と日々の職務への影響．障害科学研究，35，161-176．
- 2) 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課(2017) 特別支援教育資料(平成28年度)．

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

〔学会発表〕 計17件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

| |
|-------------------------------------------------------------------|
| 1. 発表者名 相良知恵子・一木薫・古川勝也 |
| 2. 発表標題 自立活動の指導力向上を目指した研修について - 課題関連図を活用した個別の指導計画作成の過程を中心として - |
| 3. 学会等名 日本特殊教育学会第58回大会 |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|---------------------------------------------------|
| 1. 発表者名 池山莉央・一木薫・古川勝也 |
| 2. 発表標題 重度・重複障害のある子どもの課題関連図を用いた自立活動の目標設定と指導の実践 |
| 3. 学会等名 日本特殊教育学会第58回大会 |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|---------------------------------------------------|
| 1. 発表者名 堤勇登・一木薫・古川勝也 |
| 2. 発表標題 重度・重複障害のある子どもの課題関連図を用いた自立活動の目標設定と指導の実践 |
| 3. 学会等名 日本特殊教育学会第58回大会 |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|------------------------------------------|
| 1. 発表者名 立岡里香・一木薫・古川勝也 |
| 2. 発表標題 知的障害特別支援学校における教科指導と自立活動の指導の関連 |
| 3. 学会等名 日本特殊教育学会第58回大会 |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|------------------------------------------------------------------|
| 1. 発表者名 松岡恭平・一木薫 |
| 2. 発表標題 特別支援学級担当教員を対象とした研修体制の構築 - 自立活動の指導目標設定の手続きに関する研修を通して - |
| 3. 学会等名 日本特殊教育学会第58回大会 |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|---------------------------------------------------------------------------|
| 1. 発表者名 大櫃玲子・宮崎亜紀・一木薫 |
| 2. 発表標題 特別支援学級における自立活動の集団指導の中での個々の目標達成をめざして - 個別の指導内容を関連させた活動の設定を通して - |
| 3. 学会等名 日本特殊教育学会第58回大会 |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|-------------------------------------------------------------------|
| 1. 発表者名 田島栄大・一木薫 |
| 2. 発表標題 知的障害特別支援学級における自立活動の指導 - 指導目標・内容設定の手続きに基づいた集団での活動を通して - |
| 3. 学会等名 日本特殊教育学会第58回大会 |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 発表者名 森信博・一木薫・古川勝也 |
| 2. 発表標題 知的障害特別支援学校における自立活動の指導力向上を図る研修体制について - 「自立活動の指導に係る教師の力量形成に向けたチェックシート」を活用して - |
| 3. 学会等名 日本特殊教育学会第57回大会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 発表者名 菅原仁志・一木薫・古川勝也 |
| 2. 発表標題 知的障害特別支援学校における自立活動の指導力向上を図る研修体制について - 「自立活動の指導に係る教師の力量形成に向けたチェックシート」を活用して - |
| 3. 学会等名 日本特殊教育学会第57回大会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---------------------------------------------------------------------------|
| 1. 発表者名 宮崎亜紀・一木薫 |
| 2. 発表標題 自立活動の指導における適切な指導目標及び具体的な指導内容の設定を目指して - 研修の在り方と教員の専門性の向上に着目して - |
| 3. 学会等名 日本特殊教育学会第57回大会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|-------------------------------------------------------------------------|
| 1. 発表者名 宮尾尚樹・一木薫・古川勝也 |
| 2. 発表標題 特別支援学校における自立活動の力量形成に向けた教師間の協働 - 個別の指導計画を中心に据えた担任と担任外とのやりとり - |
| 3. 学会等名 日本特殊教育学会第57回大会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|------------------------------------------------------------------|
| 1. 発表者名 立岡里香・一木薫・古川勝也 |
| 2. 発表標題 知的障害特別支援学校における自立活動の指導の取組 - 個別の指導計画の書式や指導体制の在り方に着目して - |
| 3. 学会等名 日本特殊教育学会第57回大会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|-------------------------------------------------------------|
| 1. 発表者名 是澤美天・松川亜沙美・一木薫 |
| 2. 発表標題 知的障害特別支援学校における自立活動の指導 - 個別の指導計画の作成プロセスの明確化を通して - |
| 3. 学会等名 日本特殊教育学会第57回大会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|----------------------------------------------------------------------------|
| 1. 発表者名 相良知恵子・一木薫・古川勝也 |
| 2. 発表標題 重度重複障害のある子どもの人や物へ注意を向ける力を高める自立活動の指導 - 課題関連図から導き出した指導仮説の検証を通して - |
| 3. 学会等名 日本特殊教育学会第57回大会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---------------------------------------------|
| 1. 発表者名 林田真志・船橋篤彦・森まゆ・小林秀之・濱田豊彦・一木薫・安藤隆男 |
| 2. 発表標題 特別支援学校教員の養成を取り巻く現状と課題 |
| 3. 学会等名 日本特殊教育学会第57回大会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|-----------------------------------------------------------------|
| 1. 発表者名 一木薫・古川勝也・廣瀬雅次郎・佐仲健吾・菅野和彦 |
| 2. 発表標題 自立活動の指導を担う教員の養成と現職研修のあり方 - 実態把握から指導目標を導き出すプロセスを中心に - |
| 3. 学会等名 日本特殊教育学会第57回大会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|-------------------------------------------------------------|
| 1. 発表者名 一木薫 古川勝也 廣瀬雅次郎 佐仲健吾 北川貴章 |
| 2. 発表標題 自立活動の指導を担う教員の養成と現職研修のあり方 - 教員養成の課題整理と現職研修の企画立案 - |
| 3. 学会等名 日本特殊教育学会第56回大会 |
| 4. 発表年 2018年 |

〔図書〕 計1件

| | |
|--------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 一木 薫 | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 慶應義塾大学出版会 | 5. 総ページ数 208 |
| 3. 書名 重度・重複障害教育におけるカリキュラム評価 | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|---------------------------|-----------------------|----|
| | | |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
| | |